

平成 30 年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

高齢者を支える

天理中学校 三年 安井 ひより

私は、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが大好きです。おじいちゃんとおばあちゃんは今、年金をもらって生活をしています。その年金は私のお父さんお母さんなどの働いている人からの税金でまかなわれています。昔は約八人の人で一人の高齢者を支えていましたが、今は約二人の人で一人を支えているそうです。このことを知って私はそれだけ高齢化が進んでいて、お父さんお母さんの仕事が大変になっているんだろうと思いました。そして毎日一生懸命働いてくれているお父さんお母さんに感謝しないとイケないと思いました。

私の夢は公立の保育園で働くことです。私たちが働くようになるころには一人で一人の高齢者を支えることになるということを知りました。今でも高齢を支えるのは大変なのに私たちが働くようになったころ、それよりももっと将来を考えると、とても心配になりました。私がもし保育士になれば、そのお給料は他の人からの税金だということも知りました。なので誰かからの税金をお給料としてもらい、そのお金から税金をおさめて高齢者を支えることになります。それを知って公務員になれば、税金をはらっている人たちにも感謝をしなければいけないとわたしは思いました。

今、私のおじいちゃん、おばあちゃんは毎日たけ仕事をしたり、たくさん話をしたり、おいしいごはんを食べたりして、幸せで楽しい生活を送っていると思います。その生活ができるのは、お父さんお母さんたちの働いてくれている人のおかげだと思います。毎日ほとんど休みがないのに文句一つ言わずに働くのはほんとに大変だと思います。なので私が働くようになったら、今おじいちゃんおばあちゃんのために一生懸命働いてくれているお父さんお母さんが幸せに楽しくらせるだけの年金があげられるように文句をいわず一生懸命働こうと思いました。

今年も税の作文をかいて、もっと税金のことをしれてよかったと思います。そしてお父さんお母さんへの感謝の気持ちをわすれてはいけないということも改めて思うことができました。